

今昔物語

400



ふしむる

たのむる

たのむる

たのむる

たのむる

たのむる

たのむる

たのむる



千々廻玉
 光の玉の光もくもりな死きみかこころとそへて幾千代
 千年へん君か衣のかさりよいくちんよししらぬまよまかめや
 みかきつる言葉の玉のひかまにもさまか千歳の影の見えけり
 さらにまた光をそへてことしより千年つらぬく玉れをそこそ
 うるのし死君かよはひの白玉のまらすくもちよやへぬらん

千々廻玉

寄玉祝

(木田光盛遺墨)

東京 橋道守先生 閱

岩代 本田光盛 編輯

東京華族 津輕承昭

同 華族 水野忠敬

同 華族 増山三雪子

同 鈴木重嶺

同 橋道守

同 加藤安彦

同 江刺恆久

若かへるとしとむかへし君こそ玉にねらぬひかり共みぬ
 さらにもた光もそん君らよと千代にかやく玉とみるかな
 老の波わかかへりけし和歌の浦の真玉まらたま君やひろはん
 玉といふたまのあれども人のこころの結長くたもたんとよき
 君りつる玉の光のそれよりもよふあらんきて千代さかえなん
 幾度ももどるかへる君こそ玉をめぐらんよこひなるらめ
 曇なきたまの光どもろどもに世にかやくきて千代もへぬらん
 六十あまり一つ心によのひとのあとはの玉やみか死いこらん
 つらぬきしその七曲れたまの緒と君の幾千代くりかへさなん
 大君のまなくみふかき露のたまかよらぬ民のあらしとる思ふ
 千萬もけらぬきとむるみたりらぬ君かこころの玉と有ける
 解ふとも君かまどこの玉まそわかの浦わに千代もひろこめ
 玉の門たまのいくとるあら玉のとしのを長きひかりそふらん

東京 青木 修
 同 和田 正雅
 同 佐々木 信綱
 同 水原 慶夫
 同 櫻井 尙保
 同 伊能 高老
 同 山田 守夫
 同 増山 雪汀
 大坂 柏谷 並穂
 同 豊の門 良隆
 同 愛 子
 上總 東條 宗績
 同

かきてな死年の緒すけて君かもつ玉にのほしもあらぬなり身
 千代迄も輝くものいやさかにのたままと君かみかけあるらん
 大君のまよのひかりをいたきて心のたままかかうきしさ
 なくひなく榮えん君かしろく孫も黄金もまかぬ王によそへて
 文みすのまらて過まし真心のたまよりひかるきみかここの葉
 遠近よひかりあまねく言ははの玉てふたまのきとあことわれ
 ようへてもたまの光いたえすして君かちとせを猶てらすらん
 ぬは玉の夜を照す玉ありてくもりなきよといよくなりぬる
 かやくきてさすき玉の曇らさるみよのまるしのためし也鬼
 曇なきみよ光をかやくかすこころのたまをたからなりける
 ひとめくりつらぬきとめし玉の緒を今一めぐりくりかへせ君
 千代八千代ちさりて今を結ひかかん君かよはひの長き玉の緒
 どれやどれ君か齡のかすぶとと安達のはらのつものまらぶま

常陸 高寺 眞風流
 同 山口 金文
 同 久米 孝助
 伊豆 飯田 守年
 同 小川 千枝子
 遠江 松下 雅綱
 尾張 森 七兵衛
 同 丹羽 章知
 同 千村 政美
 近江 岡崎 敬喜
 信濃 高野 重方
 同 中山 明誠
 同 川船 高純

とうきていつらぬきとむる玉の緒の百尋ちひろ長きみよこひ
 千早振らみのとまをうけつきてたぬることあり君か玉の緒
 みかたつと撫つ玉をめてはやし愛世の外れちよやへぬらん
 うきりなき伊勢の渚の鮫たまきみかよはひのうすよひろん
 世よ光りかよやく物へ磨きつる人のころのまたまなりけり
 心してみかたししたみか言のはのたまの幾代もくもらさるらん
 大御代れひかりとよもよ天てらと月日のたまの曇る代となき
 かきりなれ君かよこひの和田つとれたま玉まよ玉しられさり身
 朝夕にひとのころのたますらもみかゝりみよの光ならまし
 治れるよあつたひてよのまもり日の護なるやさかにのたま
 神代よりつたへく日のもとひかりと今もみよまの玉
 天つ神くたしまつりまむかしより今もくもらぬ八さかにれ玉
 君かえし言葉の玉のいまさらにもみかゝすとも世に光るなり

同 信濃 東山深敵
 同 池田政章
 上野 根岸松齡
 同 駒井真蔭
 同 書上守雄
 同 高井静枝
 同 高瀬高齋
 下野 松本真彦
 岩代 安齋光影
 同 羽田孝之
 同 安齋光俊
 同 丹拾瑞枝
 同 武蔵千郷

明らかく拾まるみよのやさかよの玉とたへん外なかりり
 滝川の岩瀬れあみのしらたまをきみかよはひの敷にかとへん
 よるひかる玉をうらやひ人もなしかく明らかきみよの恵みあ
 八尺瓊の玉のひかりもいやまして榮えさかゆるきみかみよ哉
 神代よりくもる時なく明らかくみよのひかりをみすまの玉
 わらの浦に拾へどつきぬ言の葉の玉もこれよの敷よまよし
 玉といふたまの中もえかたかる玉のつきせぬきま玉のそ
 寶あるころのたまをみかゝれて光をみよにうとやかすらん
 八雲たついつもかたらぬ八尺瓊の玉のみ影とよのすかたなる
 よ死人のころのたまの拾まざるみよの光となりやしつらん
 年よともきみかころの玉のみ千代もくもらぬ光なるらん
 大君れみいつと共に千代八千代光りかよやくやさかにのたま
 どこしへにはきたるへつたまか玉をかけてを祈る君かみよ哉

同 伊達千陽
 同 菅野守秋
 同 壬生惠詮
 同 本田壽枝
 同 安齋光俊
 同 矢内千芳
 同 須田金成
 同 三友堂金益
 同 大内長次右衛門
 同 紺野浪房
 同 武藤義春
 同 明石重芳
 同 渡邊吉秋

どこしへに曇らぬさまのあきらけく治まるみよれ光ならまし
 久方の月のひかりもくもりなき世の言葉のまにまかめや
 白妙のころものうらのさまよもちよを重ぬる君をめてたさ
 君かよのゆり敷にせん龜の尾のやまよりかつるたさのまら玉
 皇國のつきぬめくみそあきらけき三種のなるの玉のひかりに
 ぬは玉のやみとてしせる玉なれのみよの寶ときもあか先よ
 天地と共に日つたのうこかぬ神のめくをみすまのさま
 翁さひ老せて千代やちさらましくすりとさくの露のしらたま
 大君のまもりまつくる八坂瓊の玉のひちりそよまたくひな死
 さま人も唐土ひどもえうたかるたまつひ船をそゆくみよかな
 天てらす神よりうけままか玉にくもらぬみよのまもりなり鳥
 事もなく治まるみよの大君のたまの御あそひかりなりける
 玉といふたまの中よもさまの緒の長さのみよのはまれ也けり

同 岩代 伊達雅葉
 同 沖田光妻
 同 松の屋守徳
 同 春比門千慶
 同 星柳園千風
 同 丹治伊男理
 同 佐藤香居
 同 臨山亭常雄
 同 櫻園清枝
 同 伊達ちゆ子
 同 梅貞舎香姬
 同 和風亭春次
 同 星樹園

曇なきまよひかされるまか玉にくもらぬに高きたからなりけり
 四方の海よせくる波のまらたまを君よりはひの数どりにせん
 うるのしき物へとへい君か代の光あまねささまとこよへよ
 君かへん千年の後のそあもあはこよろの玉にくもらさるらん
 明けきまよのためしをみすまの玉のひちりそ曇らさりたる
 幾千度めくれとつきに君よりはしなき玉のたくひあるらん
 七曲のたまもたやそくつらぬさしいさをと國はひかり也たる
 久方の月れたたまのひかりをも出るかきりひきとやまららん
 神代より傳へもてきてくもりなくれる玉はひかりなり鳥
 神代よりかはらぬもの日本の本國のたからの玉にそ有ける
 敷島のしかの浦わにちよかけて玉拾ふきみそかしまかりける
 目にあへるうみの玉と磨きつゝ君の幾代をわけてみるらん
 伊勢の海のとこの真玉のときよりもまた數まれぬ君かまよ哉

同 梅花園盛浦
 同 自進舎
 同 高廻屋玉樹
 同 夢廻屋守伴
 同 鶴翁
 同 毫舎
 同 岩代 森の舎金富
 同 陸前 大澤主守
 同 豊原雲峰
 同 豊原芳春
 同 伊藤政則
 同 伊藤祐彦
 同 猪股照文

よふあまた玉の數あるたまのうちふかやく玉の言葉れたま
つゝめ共うくれぬたまのひかりこそ曇らぬみよの姿なるらめ
白菊におきそふつものまら玉を君かよこひれかそどりにせん
年毎に玉のをなかく重ねおし死みかよこひや千代もたえせぬ
新玉れとしたちうへるこの日よりきみり齡の千代やかそへん
大君れいさを玉にくらふをまたよろつよやひかりそふ蘭
曇りなきころの玉のあらはれてその名も共に世に光をけり
わさうへり流れてつれぬ玉の井をたまのを長く君にくむらん
磨えし君かよころのたまのをいと長きよにてりわたるらん
始なく終もあらぬたまのこどもくれいかへるきみかよこひ
千代へても曇るよまらぬまらたまの光にたくふ君かよこひか
おき渡すひろの露のしらふまを君かよひの數もどらばや
磨きえし君かこころの玉れ緒うちよも八千代も曇らさらまし

陸前 佐藤守信
同 平田静保
同 花園春盛
同 布澤龜齡
同 熊田影秀
陸中 星 櫻村
同 黒澤敬信
同 久居信敏
同 二階堂茂枝
陸奥 廣田群一
羽前 佐藤芳松
同 伊藤美雄
同 木村藤雄

まかきつる心の玉の千代ふともくもくぬ君かよひなるらん
千年へん君かよひのちりかすの廣野における露のまらたま
ぬきとめて曇るよまらぬ玉の緒の長き君かよひなりけり
神代よりつたへくまみすまるのたまの光をよしのまらから
よる光る玉のものかひうるのしくみかける名こそ世に實なれ
くさくの玉の光をそへよかしよひかざる君かこころに
どこどこまたえすはたの言葉の玉のひかりの千代も尽せし
幾千々と數へかたき君かへんどのかきりと潮のまらたま
曇なきみよの光によそへてもめてたきものやさかよのたま
玉といふたまよりもなほ貴き人のこころの玉よとありける
君りよのみいつと共にかよやきて世にくもりなき八坂環の環
あら玉の命帯をちよのはしめにて君かひとらぬ數ならぬか
千早振かみのつたへし八坂にのたまこそくあのためから也けれ

同 木村英雄
同 安部 薫
同 坂野 繁
同 島津祐齋
羽後 熊谷直清
同 木村重誠
越後 本多朴民
丹波 能勢顯保
美作 石黒真矩
同 石黒布矩
同 石黒菊子
同 岸 一秀
同 豊永文吉

玉といふたまの玉れども曇なき君かこころのたまそよまなる
 もしは草かくともつきぬまき島のみよの言葉の玉のかすく
 君かよのいやさかえゆく民草よかゝるゆくとやつゆのまき玉
 幾城にもかよへくもなし日本の神代なからの玉のかしこま
 青柳のいとぬく露のまら玉をいくはるかたてきみのみるらん
 君かよの日にひらけてまき島の道とてよせることのは(玉
 岩そよく灘のしら玉きまならてたれうのよに敷へみるへき
 岩そよく水泡のたまにすゑかけてにこりなきよを汲てまる哉
 敷へても尽せぬもの君かよと千脚よおけるつゆのまらま
 いと長きみよは榮をはることにくりかへしとる玉のとやなき
 よはひをのへの小草におく露のたまのと長く君やとるらん
 家の富くにのさかえをみすまの玉の雲井のたからなりけり
 言のはれたまひるへんとわかの浦に立かへりきて遊ぶ君も

美作 福島南窓 楳
 同 梅の家近子
 紀伊 西澤修策
 同 西澤八洲 磨
 同 西澤美實
 同 西澤和彦
 同 西澤春子
 同 同
 同 大畑真道
 同 翠園
 同 吾獸山人
 讃岐 秋山高治
 肥前 松田常雄

まら玉もまよまもあれと魂のとの長さを君かたからかりける
 幾度かわかよへりつきたまの緒の長さよはひと結ひとゆなん
 曇なくみかけ玉れひかまこと君かまことこのころなりけれ
 まきしまれやまと言葉のよまくも磨きてみよの光にかせん

同 河野道繼
 同 河野信美
 同 平登
 光盛孫 本田恆怡

寄 田 祝

ちるさなく君や千歳をかさぬらん桑田の海とよしかはるとも
 五日の風十日の雨にうるはひて返す千代田のちよもへなとん
 石上ふるの小山田うちかへしけふよりきみかちよいはし
 秋は田は落はをひろふ村すゆめそれゆめくみにもれぬとよ哉
 千町田の穂にむらひれて嬉しくも年ゆる秋よあひあけるかな
 せきゆる、苗代小田のみつからに千代の船とまうせつるかな
 風雅男の廣さうとたに年やきのことばの花のたねおろすらん

東京 榑守 枝
 同 長島日 鵬
 同 尾上真 路
 大坂 菊山正 臣
 同 孤月 庵
 同 柏谷並 穂
 同 鬼園

みちたらふ齡ときとや重ぬらんはるの山田のかへそかへすも
 とと草れとみ榮えつよよろつよもふるのわさ田は盡ぬ極りの
 八束穂とちつかよりても千町田にけきぬ齡ときみへなまし
 山をほりみそとうめつよ田になしてさかえゆくよを祝ふ君哉
 若なへのわかへへつよ榮ゆかんよはひの末をたのみ有ける
 岩代や五百代小田のちしろたの田かすときみか年のありかそ
 生れ出まひかしれ春ようちかへす君かよはひや高田なるらん
 種波よる竹田にすたくすよめまてきみか齡を千代とやくらん
 すきかへす大と實の田のもよと玉もこかねもいたすなりけり
 年ことにとのる千代田の八束穂も君かよとひの敷にしか先や
 さくら田よひれゐる鶴の君か爲若せぬたねをまかんどやする
 豊年のあきのすかたをとしめひく苗代小田にうつしてそみる
 君かよを八千代とよひて村すよめ落穂をひろふ千町田のおも

大坂 長谷雄見隆
 同 九梨園榮丸
 同 兎園
 武藏 俊徳堂克明
 上總 鍋田重榮
 常陸 高守眞風流
 上野 根岸松齡
 同 高井静枝
 同 二渡信經
 磐城 加藤永胤
 同 加藤照郷
 同 千住
 岩代 菊池眞澄

稻のはのまかえます田あちよまして君か齡もはかりしられす
 すへらきの大城のもどれ千代田よりゆくを流れて茂る民くさ
 君か代の長田のいねのかけちから幾て千五百の秋もへなはん
 かきりなれ御代を思へ秋の田の稻の千かひもよの敷かひ
 ちまらたのをしねあかゝる水口も豊にすめるきまかよかな
 壘そへて千代田はすゑに實田もあすそふとよを願ししらすぬ
 秋もなぬとのれる年へ販ひてけふりもたけたやまもとのさと
 君かよのいよと豊けし秋のたの八束よりはのたりにたらひて
 君かよの長田のをしねはあいてよ波しつわあるうらやすの國
 秋の田のたりはの稻のたかかあも君の千年のよはひつひらん
 かりあけて小田の稻穂の落たるもひろのぬみよの民の豊けき
 八束穂のみつはの國のなもしるくみのる五百田を實なりける
 作りうる五百代小田もたかなる穂波に千代の秋やこもれる

同 矢内光門
 同 同
 同 矢内千俊
 同 同
 同 本田千富
 同 壬生惠詮
 同 長澤菅根
 同 文机堂金房
 同 星林園千住
 同 柳榮子吉胤
 同 鳳凰堂雪豊
 同 三浦成人
 同 佐藤長民

みたや守る君かよはひの長きれ稻のたりはのとしやへぬらん
君かよの千町八千町つくる田のはにあらはれてもたかなり
四方の海しつうなる世の秋の田の穂波ばかりそ高くみえける
あり立ててこのろのとかに春の田をかへすくも千代やへぬ
に元はへる君か門田のとし毎よみのさかゆる影をみえける
君か代ひいく千町田につくる稻の八束たりはにたり榮えなむ
君こそ千世すきかへせ杉澤のさの田の氷のたりよたらひて
秋のしき豊々き國のたうら田よめてたくみのる種やまくらん
うちよする穂波よみよのにきはひの定かにとる秋の千町田
榮えませ千代ませ君と大み田をかへすくもうちかへすらん
大御代ひちよたの水も至らかにとまりてふと静けかりけれ
あせこえて稻のみのれるむしろ田よの豊けさの餘をととる
年涙れよせても春にすきかへし君かもとたのさうえつさせし

- 同 岩代 矢戸和久成
- 同 栢廻屋光保
- 同 森の舎金富
- 同 星渡園千澳
- 同 光月堂安永
- 同 菊田邦助
- 同 菊田和正
- 同 廣泉堂金正
- 同 月廻門澄叔
- 同 渡邊吉太郎
- 同 梅豊舎香富
- 同 千 光
- 同 星渡園千筭

榮えのくみよれ豊けさしられけ新り田ひらけてまさるたみ草
秋の田のよりゆる千代の色とえて民にさへるみよを目出度
苗代にひくしめ繩のなかきよをかけつゝ腕のゆたねをとまく
千町田の八束たりはのよりみちて豊けたよの秋をしらるよ
の種まく君かちよ田の千代八千代榮えくきみか末いのるなり
驚のすむえそのはて迄新はりの田つらと成しみよとたてたさ
大みよの深きまくみはるれたをかへすくも思はゆるかあ
すきかへす田毎のむせよ賤のをも君の八千代のもたねまく
春されぬ賤のその子かあら小田をかへすくも千代やへぬ
君か代ひ時とつりて小山田のさかひあらそふ人たにもあし
みなど田のたりはれなみの君かよの榮しらすためしなる
人皆の心のあきもつくしつゝ田つくるみよそもたけかまける
わら小田をかへすくも開けおくとよの榮もかきりなきかな

- 同 星渡園千孝
- 同 梅齡舎香千代
- 同 桑廻門守藏
- 同 高野義造
- 同 矢戸和久成
- 同 梅清舎香一
- 同 星花庵千枝
- 同 千樹庵廣庭
- 同 檜珠園輝秀
- 同 柳園米藏
- 同 星 玉 園
- 同 郵考泰堯
- 同 星花庵千枝

君かよのちよに八千代に春の田のかへすくもさかえ行らん
 八束穂れどしある小田の村すくも君かよこひを千代とほく也
 雨風のゆくまたかこて八束穂れみのるなか田のなかきとよ哉
 足引のやまたなひく八束はの波もしつりきくみかみよかな
 もた糸まくみとしろ小田のみしり穂萬代かけてよを祈らまし
 小山田の稻のはさみのよるまをいなはもたかなる君かみよ哉
 而ら小田をかへすくもまく種の年々とのる御代もたけき
 秋の田の足穂の稻のみれる世ハ民もたけくけふりたてけん
 名にしおふ君かもと田ハ臨したつの友よふ聲もにきはひふ身
 豊あるとしのまつきを今をしる深くつもりしお死のちまらた
 千五百秋みつ月の國のなもしるく幾千町田のみりもたけし
 豊けさを謠ふのみかは君かそのよはひちよ田の千代や同く關
 豊なる門田よみのる八束穂のさるえのきみかよはひなりけり

同 岩代 梅旭舎香輝
 同 千年廻屋鶴千代
 同 花計の延面
 同 文好堂今治
 同 梅吟舎香足
 同 星柳園千風
 同 陸前 小倉茗園
 同 伊藤好春
 同 佐々木清之
 同 小山智顯
 同 安久津眞海
 同 猪股久智
 同 神原爲徳

かり渡す千町の田の面うりたにも落穂ひろいぬ秋そもたけき
 桑えゆく君か門田のたどはにちひろなるこの綱やひくらん
 八束穂のしなひふしたる秋なきハ田毎に千代をこほきぬ關
 千町田に水引いれて幾千代かとしるみよせんきみやこのきみ
 小山田も門田もいなは種に出てみやこもひあもにきこひよ身
 大皇れみよさるえよとまやこをハ千代田に社ハ移しましけぬ
 米の字のよはひにちかき君なきハやめて千代田は悪うくらん
 幾よとそく山田のさくも水千代よろつ代もかはらさるらん
 六十よも長田のまどしいかし穂のたはは穂穂の千代田共うな
 祝ひませちよへん君かぬくもより穂波もたかよよとる千町田
 秋の田れ足穂のとしね幾とせも君かよハひのうすとこもみぬ
 いかし穂に八束足穂に秋の田のみりにみのる御代を豊けき
 くりかへしすきうへしつゝ千町田の數ある給きみハへぬらん

同 小野繁富
 同 皆川芳秀
 同 大槻華月
 同 渡邊龍冰
 同 熊谷花月
 同 猪股照文
 同 陸中 小野寺清久
 同 信濃 池田顯運
 同 米津千稻
 同 綿貫光道
 同 砂田知孝
 同 挑廻舎奈願
 同 關 正軍

ちのくのもと田豊ふいかし穂れ榮ゆる末もきみのるらん
 春の田のかへそくも祝ふなり八束のたりは千代もとませと
 住江のさし田あらしのかけ深く移るのさとかすかたなるらん
 植渡す小田の早苗のわかみとり着りへりつゝ千とせへよきみ
 千町田のとしねのよみもけくと共つくせぬ物に君かみよこひ
 打かへす五百代小田あたくふらんすたゝるのすを齡にりして
 賤の男か五百代小田に植むたそさなへの數やきみかみよはひ
 年毎よみのります田は益々もともにはさかえんたとかよはひ
 君かへんよはひは數にたくふらし打かへしても盡ぬ田の面
 年ことにとれともつきし小山田は秋のものと君かよはひ
 千町田のそのかに君やたくふらん足穂の數をよはひにりして
 しきしまは道れひよりと大に代にみかきあたる君か言たま
 年毎にうちかへしても千町田のつきぬへ君かよはひなるらん

信濃 宮西文男
 越後 山角依景
 同 渡邊和綱
 羽前 鈴木繁雄
 同 井上弘光
 同 井上弘章
 同 島貫其務
 同 井上利輔
 同 古山翠
 同 井上真清
 同 勝見嘉恕
 同 羽生田守雄
 同 勝見重長

君かへんよはひの數に千町田のはにさへ秋のぼらにれてみゆ
 かきりなき君の齡に千町田のみのるをし糸を數よどらばや
 行末のたのみあるよ千町田のはにあらにれてみゆるさみ哉
 開々もく小田の足穂のにさひひて千代も榮えん君かよはひか
 いはひつゝあらしもたねけふとれに縁にかへる小田の苗代
 田鶴あさるちよたの末の末遠くかきりしられぬ秋やへなよん
 千五百秋みのる本田の千町田の實もよはひもかさとしられす
 足曳のやま田のひたのひたふるよ絶せぬもの君かたまのを
 すみよしの岸田とれして賤のともあまる實にうさわすれくさ
 豊にもみのれる小田の八束穂のたりよたりよる君かよよかな
 豊年のとつきさよけて祝ふなりつきせぬ君かよよはさかえと
 いはしちに千しろ五百代しりぬらん君の齡のよらたなか田も
 めくり來し君かよはひのむしろ田に猶も千年の種とまくらん

同 矢戸守一
 同 鈴木れか子
 羽後 高山長勝
 同 京野信孝
 後志 大竹元一
 同 遠山政之助
 河内 南佳貞
 紀伊 西澤和彦
 同 西澤八洲磨
 同 吾賦山人
 同 翠園
 伊豆 飯田守年
 伊豆 池田敬治

すみよしの原田にそのる八束穂のかすこと君かよはひ也々れ
 世を安くふるの早稲田のとしへにひや榮へき君にも有哉
 かつりちふみ代むつましく千町田の思の畔のあらそひもなし
 民脚もきみかよこひも千町田のかすかさりなきみよにも有哉
 つきせしなみとしろ小田に賤の女かけふとる苗の真代までには
 海山も田のもとなりて開けゆくみよのさうえの末もしられず
 打なひく千町の小田の八束穂のかたりしらきぬ君かみよはひ
 果しらぬよもの田のもを詠めつゝ榮ゆるまよにむを嬉しき
 むまりあるをたの足穂のたくひかもうきりしられぬ君か船の
 打かへす天のなか田のなからへて千歌五百秋さみやへぬらん
 田ちからと頼む命のたからたの千代田豊けきみよのたのしも
 春の田のかへすくも君こそいもどのこよみに若かへるらめ
 和田の原風もをさまる大御代にちさのやまたも穂波さわうそ

美作 福島正忠
 同 石黒長矩
 同 豊永文吉
 同 錦莊園袖彦
 尾張 梅の家
 同 浅井宗直
 同 加賀飯太郎
 同 佐藤 肇
 同 今江春近
 同 倉人 經營
 同 小田用平
 同 赤澤龍江
 同 赤澤末吉

若かへり門田の米のよはひてもかさねて千代の秋やまつらん
 今日おろす君か門田の苗代のちとせのたねにかみもまもらん
 々よ祝ふ本田の早苗ゆたうよもいまより千世の根さし初らん
 君か代のかすまくらへん天の下つくれる小田の稻もかよはし
 穂波よる君か門田よまよつるのきと千箱をいとよあるらん
 春の田をかへそくもいのるかな千秋五百秋つみうさねよと

肥前 河野秋景
 同 松田常雄
 同防 山本 直
 伊豫 近藤龍眠
 同 橋本一松
 備前 本田恆治

橘 道守先生撰

乙 點

寄 玉 祝

千代八千代君やひろいん打むかふすよりの海のとまの真玉

武藏 鈴木房政

何とかもよそに求めん玉のをの長きたからとたまちますみ
 未かけて結ひし君か玉の緒れたえぬや千代のひかりなるらん
 とさまれるとよよ榮ゆく言は葉のよまの皇國のひかり也けり
 たまの浦たちよる浪の白玉を君からとせのかすにかそへん
 うるのしき言葉の玉を千代かけて君かいきれをぬきとはす蘭
 とかきえし心のたまの光にもちよへんすゑとしるくみえける

寄 田 祝

みどり子の昔にかへと小山田に千代のたねをまける君かな
 今年より猶若かへり千町田といくよのはるかうちかへすらん
 八束はのたりはの小田をうちかへし千秋五百秋君やへぬらん
 引きたす秋のやまたの鳴子なはなかき君かよはひるりけり
 小山田のひよのさけ繩長かれとかけてと新るさまかみよとひ

上總 鴉田重榮

岩代 安齋千嘉雄

岩代 星櫻園千盛

陸中 澤田穂國

陸奥 長利仲麿

羽前 鈴木繁雄

下野 板本真彦

岩代 田村壽杏

信濃 並木信明

陸前 千貫園

羽前 荒井常吉

君かへん千年のやまのふもと田る落はひろひて鶴とわそへる
 春の田をかへすくも君こそいもどのこよみに若かへるらぬ
 苗代ふひくしめ繩はなからへて言葉のこなのたねもまかなん

甲 點

寄 玉 祝

つらぬきしその七曲の玉の緒のなかさの君かよはひなりけり
 君ならてたれり敷へん長濱のまさこちあらふなとのしらたま
 朝夕にことばれ玉と磨きつゝ名をかよかせ千代も八千代も
 君かへん千よのかさしと拾ひまししらたまよせよかさつ白波
 皆人のいこふ言葉のよまよへも君かよとにいつみひまるらん

尾張 榊原治郎八

讃岐 赤澤龍江

岩代 澤 美清

岩代 本田千章

同 瀧の門廣枝

羽後 高山長藤

尾張 榊原治郎八

肥前 河野秋景

寄 田 祝

引はへし五百代小田のひた繩の長さひきみりよはひなるらん
水口の田よひきはへしとしめ繩なりきよはひを神のもるらん
羽前 後藤俊雄
羽後 熊谷直清

今年おのれ、遠暦のひはひすと聞て、常々睦ひかはせる、人々のさらよもいはす、遠
きさかひの、風流士たちより、伊勢は海人か、朝な夕なよ、かつくて、皷白玉よりけ
なる、言葉の玉と、山田の賤か、はへわたす、ひたのかけ繩、引も死らそ、おくられしう
れしさい、せこ死異袖に、つゝみかねてよめる、

寄玉祝 和歌は浦の真玉白玉身は添て山田もる夫は光りとらせん

寄田祝 春は田の返すくも嬉しき千代とやかる今日にさりける

さてかく人々の、磨死に磨きて、おこせらそし、玉の光と、いたつらよひゆもてらん
も、ゆたらしけれ、巻の名と、千々の玉と、おほせて、かくものしし時よめる、

磨死たる言葉の玉を一つ緒に貫つらねて千代もみたそし

こたひかく、さばに、祝歌賜こりしも、橋道守大人か、明治十三年おのかた、一月も忘

りなく、出版せらそし、明治歌林、同盟員よ、かすまへらそし、いとど、いとどかた
しけなく、且、おのれと、同じ心に、歌島の道、たとらん人々、いど便よ、死書な
れ、大人よこひて、其規則書を、末よかけけつ

明治廿五年五月一日

岩代

本田光盛

○ 共 明 治 歌 林 規 約 書

毎月廿一日
一回發行

明治歌林ハ古調ニ偏シテ時流ヲ追ハス高尙雅ナ主トシテ和歌諸體ヲ専修スルノ材料トシテ他ノ諸體
吟詠ノ如何ヲ辨セシメ瓦礫ヲ列記シテ笑ヲ招クノ比コアラズ諸君ノ大方ノ歌友ヨ同盟諸君ヲ縦横録
一 歌林記事 共撰部(撰定者姓名ヲ記シテ)互撰部(無記名部ト云)別題部(歌書撰者
部(現今書業集古今集)○歌論部(寄稿部)○寄稿部(廣告部)○點數表(一集ト)同盟者ニ配付ス
且ツ諸君其トモ質問スルヲ得但シ質問ハ往復はかきテ用ル事
一 寄稿期限 寄稿期限ハ毎月十日ト確定シ一日モ延期セズ依テ延着ノ寄稿ハ掲載セザル事アリ且
共撰部兼題ハ短歌別題ハ長歌小長歌短歌旋歌今撰ノ諸體隨意出詠スルヲ得但長歌出詠者限リ
別ニ必ス短歌ヲ添テ事且添削ノ上返草ヲ乞フ者ハ正副二通ニ記載シ返信郵券ヲ添ヘ詠料紙ハ
半紙美濃紙ノ類ヲ用キ愛題別題ヲ別記シ毎紙姓名ヲ記載スル事
一 互撰方法 共撰部ハ各自一題中ヨリ二首ヲ、互撰スル事(代撰隨意)別題佳關ハ年末佳關作者ヲ
レテ互撰セム
一 賞與種類 共撰部ハ一年間二度高點者ハ本社出版定價壹圓未滿三度以上高點者ハ壹圓以上佳關
高點(五人以上)一首ハ五拾錢未滿二首ハ壹圓未滿三首壹圓以上ヲ指名賞與ス但シ送送費ハ自
辨且ツ高點歌並ニ佳關共撰者明拾歌集ハ轉載シテ名譽ヲ得但シ世々傳フ
一 寄稿記事 同盟者ハ歌學上有益ノ事ハ隨意寄稿スルヲ得但シ載否ハ本社ノ適宜ニ任ス
一 同盟種類 左ノ四類ニ區別シ三類以上ヲ同盟者トシテ雅學上芳般ノ願問ニ應ス

第壹類 共撰部兼題並ニ別撰出詠者
 第貳類 共撰部兼題並ニ別撰出詠者
 第參類 共撰部兼題並ニ別撰出詠者
 第肆類 共撰部兼題並ニ別撰出詠者
 第伍類 共撰部兼題並ニ別撰出詠者
 第陸類 共撰部兼題並ニ別撰出詠者
 第柒類 共撰部兼題並ニ別撰出詠者
 第捌類 共撰部兼題並ニ別撰出詠者
 第玖類 共撰部兼題並ニ別撰出詠者
 第十類 共撰部兼題並ニ別撰出詠者
 第十一類 共撰部兼題並ニ別撰出詠者
 第十二類 共撰部兼題並ニ別撰出詠者
 第十三類 共撰部兼題並ニ別撰出詠者
 第十四類 共撰部兼題並ニ別撰出詠者
 第十五類 共撰部兼題並ニ別撰出詠者
 第十六類 共撰部兼題並ニ別撰出詠者
 第十七類 共撰部兼題並ニ別撰出詠者
 第十八類 共撰部兼題並ニ別撰出詠者
 第十九類 共撰部兼題並ニ別撰出詠者
 第二十類 共撰部兼題並ニ別撰出詠者
 第二十一類 共撰部兼題並ニ別撰出詠者
 第二十二類 共撰部兼題並ニ別撰出詠者
 第二十三類 共撰部兼題並ニ別撰出詠者
 第二十四類 共撰部兼題並ニ別撰出詠者
 第二十五類 共撰部兼題並ニ別撰出詠者
 第二十六類 共撰部兼題並ニ別撰出詠者
 第二十七類 共撰部兼題並ニ別撰出詠者
 第二十八類 共撰部兼題並ニ別撰出詠者
 第二十九類 共撰部兼題並ニ別撰出詠者
 第三十類 共撰部兼題並ニ別撰出詠者
 第三十一類 共撰部兼題並ニ別撰出詠者
 第三十二類 共撰部兼題並ニ別撰出詠者
 第三十三類 共撰部兼題並ニ別撰出詠者
 第三十四類 共撰部兼題並ニ別撰出詠者
 第三十五類 共撰部兼題並ニ別撰出詠者
 第三十六類 共撰部兼題並ニ別撰出詠者
 第三十七類 共撰部兼題並ニ別撰出詠者
 第三十八類 共撰部兼題並ニ別撰出詠者
 第三十九類 共撰部兼題並ニ別撰出詠者
 第四十類 共撰部兼題並ニ別撰出詠者
 第四十一類 共撰部兼題並ニ別撰出詠者
 第四十二類 共撰部兼題並ニ別撰出詠者
 第四十三類 共撰部兼題並ニ別撰出詠者
 第四十四類 共撰部兼題並ニ別撰出詠者
 第四十五類 共撰部兼題並ニ別撰出詠者
 第四十六類 共撰部兼題並ニ別撰出詠者
 第四十七類 共撰部兼題並ニ別撰出詠者
 第四十八類 共撰部兼題並ニ別撰出詠者
 第四十九類 共撰部兼題並ニ別撰出詠者
 第五十類 共撰部兼題並ニ別撰出詠者
 第五十一類 共撰部兼題並ニ別撰出詠者
 第五十二類 共撰部兼題並ニ別撰出詠者
 第五十三類 共撰部兼題並ニ別撰出詠者
 第五十四類 共撰部兼題並ニ別撰出詠者
 第五十五類 共撰部兼題並ニ別撰出詠者
 第五十六類 共撰部兼題並ニ別撰出詠者
 第五十七類 共撰部兼題並ニ別撰出詠者
 第五十八類 共撰部兼題並ニ別撰出詠者
 第五十九類 共撰部兼題並ニ別撰出詠者
 第六十類 共撰部兼題並ニ別撰出詠者
 第六十一類 共撰部兼題並ニ別撰出詠者
 第六十二類 共撰部兼題並ニ別撰出詠者
 第六十三類 共撰部兼題並ニ別撰出詠者
 第六十四類 共撰部兼題並ニ別撰出詠者
 第六十五類 共撰部兼題並ニ別撰出詠者
 第六十六類 共撰部兼題並ニ別撰出詠者
 第六十七類 共撰部兼題並ニ別撰出詠者
 第六十八類 共撰部兼題並ニ別撰出詠者
 第六十九類 共撰部兼題並ニ別撰出詠者
 第七十類 共撰部兼題並ニ別撰出詠者
 第七十一類 共撰部兼題並ニ別撰出詠者
 第七十二類 共撰部兼題並ニ別撰出詠者
 第七十三類 共撰部兼題並ニ別撰出詠者
 第七十四類 共撰部兼題並ニ別撰出詠者
 第七十五類 共撰部兼題並ニ別撰出詠者
 第七十六類 共撰部兼題並ニ別撰出詠者
 第七十七類 共撰部兼題並ニ別撰出詠者
 第七十八類 共撰部兼題並ニ別撰出詠者
 第七十九類 共撰部兼題並ニ別撰出詠者
 第八十類 共撰部兼題並ニ別撰出詠者
 第八十一類 共撰部兼題並ニ別撰出詠者
 第八十二類 共撰部兼題並ニ別撰出詠者
 第八十三類 共撰部兼題並ニ別撰出詠者
 第八十四類 共撰部兼題並ニ別撰出詠者
 第八十五類 共撰部兼題並ニ別撰出詠者
 第八十六類 共撰部兼題並ニ別撰出詠者
 第八十七類 共撰部兼題並ニ別撰出詠者
 第八十八類 共撰部兼題並ニ別撰出詠者
 第八十九類 共撰部兼題並ニ別撰出詠者
 第九十類 共撰部兼題並ニ別撰出詠者
 第九十一類 共撰部兼題並ニ別撰出詠者
 第九十二類 共撰部兼題並ニ別撰出詠者
 第九十三類 共撰部兼題並ニ別撰出詠者
 第九十四類 共撰部兼題並ニ別撰出詠者
 第九十五類 共撰部兼題並ニ別撰出詠者
 第九十六類 共撰部兼題並ニ別撰出詠者
 第九十七類 共撰部兼題並ニ別撰出詠者
 第九十八類 共撰部兼題並ニ別撰出詠者
 第九十九類 共撰部兼題並ニ別撰出詠者
 第一百類 共撰部兼題並ニ別撰出詠者

十二月	十一月	十月	九月	八月	七月	六月	五月	四月	三月	二月	一月
山	夜	近	夕	初	納	夏	林	麗	月	初	新
初	時	携	初	秋	涼	夕	殘	外	前	春	年
雪	雨	衣	雁	雨	風	月	花	燕	柳	風	竹
曉	岡	山	水	月	夏	夏	密	社	浦	野	松
神	寒	家	上	前	日	草	新	頭	春	若	上
樂	松	菊	霧	鴻	長	深	竹	花	草	菜	雪
寒	落	紅	寄	旅	草	海	閑	遠	山	每	別
流	葉	葉	月	宿	花	路	居	山	窓	朝	題
帶	入	如	述	聞	先	日	子	春	對	開	火
月	籬	醉	懷	虫	秋	暮	規	月	雨	春	如

注意
 寄草期限ハ毎月十日迄ナリ
 長歌出詠スルモ失體スル時
 ハ短歌ヲ掲載ス依テ短歌ハ
 必ス出詠スル事若シ添ヘサ
 レハ掲載セズ
 寄草費相切候節ハ封記ヲ朱
 書ニス
 明治歌集ハ短歌編輯ノ膏ナ
 リ依テ佳關ハ短歌中ヨリ撰
 擇ス

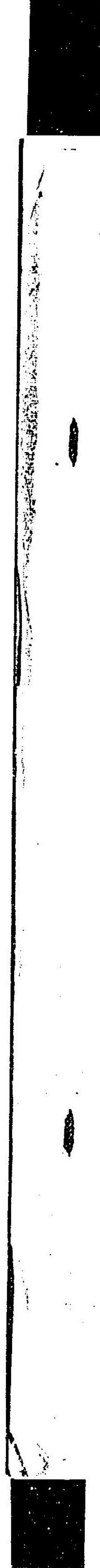
明治廿五年四月改正
 橋道守謹啓

第一類 共撰部兼題並ニ別出詠者
 第二類 共撰部兼題ニ出詠者
 第三類 別題ノ出詠者
 第四類 同題ノ出詠者
 第五類 同題ノ出詠者
 第六類 同題ノ出詠者
 第七類 同題ノ出詠者
 第八類 同題ノ出詠者
 第九類 同題ノ出詠者
 第十類 同題ノ出詠者
 第十一類 同題ノ出詠者
 第十二類 同題ノ出詠者
 第十三類 同題ノ出詠者
 第十四類 同題ノ出詠者
 第十五類 同題ノ出詠者
 第十六類 同題ノ出詠者
 第十七類 同題ノ出詠者
 第十八類 同題ノ出詠者
 第十九類 同題ノ出詠者
 第二十類 同題ノ出詠者
 第二十一類 同題ノ出詠者
 第二十二類 同題ノ出詠者
 第二十三類 同題ノ出詠者
 第二十四類 同題ノ出詠者
 第二十五類 同題ノ出詠者
 第二十六類 同題ノ出詠者
 第二十七類 同題ノ出詠者
 第二十八類 同題ノ出詠者
 第二十九類 同題ノ出詠者
 第三十類 同題ノ出詠者
 第三十一類 同題ノ出詠者
 第三十二類 同題ノ出詠者
 第三十三類 同題ノ出詠者
 第三十四類 同題ノ出詠者
 第三十五類 同題ノ出詠者
 第三十六類 同題ノ出詠者
 第三十七類 同題ノ出詠者
 第三十八類 同題ノ出詠者
 第三十九類 同題ノ出詠者
 第四十類 同題ノ出詠者
 第四十一類 同題ノ出詠者
 第四十二類 同題ノ出詠者
 第四十三類 同題ノ出詠者
 第四十四類 同題ノ出詠者
 第四十五類 同題ノ出詠者
 第四十六類 同題ノ出詠者
 第四十七類 同題ノ出詠者
 第四十八類 同題ノ出詠者
 第四十九類 同題ノ出詠者
 第五十類 同題ノ出詠者
 第五十一類 同題ノ出詠者
 第五十二類 同題ノ出詠者
 第五十三類 同題ノ出詠者
 第五十四類 同題ノ出詠者
 第五十五類 同題ノ出詠者
 第五十六類 同題ノ出詠者
 第五十七類 同題ノ出詠者
 第五十八類 同題ノ出詠者
 第五十九類 同題ノ出詠者
 第六十類 同題ノ出詠者
 第六十一類 同題ノ出詠者
 第六十二類 同題ノ出詠者
 第六十三類 同題ノ出詠者
 第六十四類 同題ノ出詠者
 第六十五類 同題ノ出詠者
 第六十六類 同題ノ出詠者
 第六十七類 同題ノ出詠者
 第六十八類 同題ノ出詠者
 第六十九類 同題ノ出詠者
 第七十類 同題ノ出詠者
 第七十一類 同題ノ出詠者
 第七十二類 同題ノ出詠者
 第七十三類 同題ノ出詠者
 第七十四類 同題ノ出詠者
 第七十五類 同題ノ出詠者
 第七十六類 同題ノ出詠者
 第七十七類 同題ノ出詠者
 第七十八類 同題ノ出詠者
 第七十九類 同題ノ出詠者
 第八十類 同題ノ出詠者
 第八十一類 同題ノ出詠者
 第八十二類 同題ノ出詠者
 第八十三類 同題ノ出詠者
 第八十四類 同題ノ出詠者
 第八十五類 同題ノ出詠者
 第八十六類 同題ノ出詠者
 第八十七類 同題ノ出詠者
 第八十八類 同題ノ出詠者
 第八十九類 同題ノ出詠者
 第九十類 同題ノ出詠者
 第九十一類 同題ノ出詠者
 第九十二類 同題ノ出詠者
 第九十三類 同題ノ出詠者
 第九十四類 同題ノ出詠者
 第九十五類 同題ノ出詠者
 第九十六類 同題ノ出詠者
 第九十七類 同題ノ出詠者
 第九十八類 同題ノ出詠者
 第九十九類 同題ノ出詠者
 第一百類 同題ノ出詠者

十二月	十一月	十月	九月	八月	七月	六月	五月	四月	三月	二月	一月	明治廿五年
山夜	山夜	山夜	山夜	山夜	山夜	山夜	山夜	山夜	山夜	山夜	山夜	山夜
初時	初時	初時	初時	初時	初時	初時	初時	初時	初時	初時	初時	初時
雪雨	雪雨	雪雨	雪雨	雪雨	雪雨	雪雨	雪雨	雪雨	雪雨	雪雨	雪雨	雪雨
曉	曉	曉	曉	曉	曉	曉	曉	曉	曉	曉	曉	曉
神	神	神	神	神	神	神	神	神	神	神	神	神
樂	樂	樂	樂	樂	樂	樂	樂	樂	樂	樂	樂	樂
寒	寒	寒	寒	寒	寒	寒	寒	寒	寒	寒	寒	寒
流	流	流	流	流	流	流	流	流	流	流	流	流
帶	帶	帶	帶	帶	帶	帶	帶	帶	帶	帶	帶	帶
月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月
寄	寄	寄	寄	寄	寄	寄	寄	寄	寄	寄	寄	寄
草	草	草	草	草	草	草	草	草	草	草	草	草
海	海	海	海	海	海	海	海	海	海	海	海	海
山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山
遠	遠	遠	遠	遠	遠	遠	遠	遠	遠	遠	遠	遠
必	必	必	必	必	必	必	必	必	必	必	必	必
レ	レ	レ	レ	レ	レ	レ	レ	レ	レ	レ	レ	レ
ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ
寄	寄	寄	寄	寄	寄	寄	寄	寄	寄	寄	寄	寄
書	書	書	書	書	書	書	書	書	書	書	書	書
明	明	明	明	明	明	明	明	明	明	明	明	明
治	治	治	治	治	治	治	治	治	治	治	治	治
歌	歌	歌	歌	歌	歌	歌	歌	歌	歌	歌	歌	歌
集	集	集	集	集	集	集	集	集	集	集	集	集
ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ
短	短	短	短	短	短	短	短	短	短	短	短	短
歌	歌	歌	歌	歌	歌	歌	歌	歌	歌	歌	歌	歌
中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中
ヨ	ヨ	ヨ	ヨ	ヨ	ヨ	ヨ	ヨ	ヨ	ヨ	ヨ	ヨ	ヨ
リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ
撰	撰	撰	撰	撰	撰	撰	撰	撰	撰	撰	撰	撰

明治廿五年五月廿九日印刷
 明治廿五年五月廿一日出版

編輯人 本 田 文 治
 發行所 右 同 所
 印刷人 本 田 恒 治
 福島縣岩代國安達郡 新殿村大字杉澤



特67
400

086275-000-7

特67-400

千々廻玉

本田 光盛/編

M25

DBD-1047

